

製品名: GRO α ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11788**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	CXCL1
別名	CXCL1; GRO; GRO1; GROA; MGSA; SCYB1; Growth-regulated alpha protein; C-X-C motif chemokine 1; GRO-alpha(1-73); Melanoma growth stimulatory activity; MGSA; Neutrophil-activating protein 3; NAP-3
遺伝子 ID	2919.0
SwissProt ID	P09341
免疫原	抗血清はヒト GRO α 由来の合成ペプチドに対して作製された。AA 範囲: 39-88

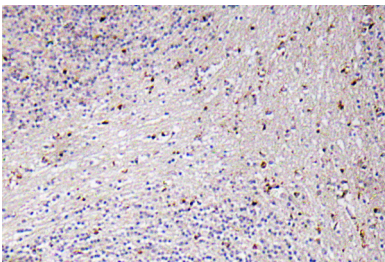
背景

この抗菌遺伝子は、ケモカインの CXC サブファミリーのメンバーをコードしています。コードされているタンパク質は、G タンパク質共役受容体である CXC 受容体 2 を介してシグナル伝達する分泌型成長因子です。このタンパク質は炎症において、また好中球の走化性因子として機能します。このタンパク質の異常発現は、特定の腫瘍の増殖および進行と関連しています。このタンパク質が自然に処理された形態は、走化性活性が増大します。選択的スプライシングにより、この遺伝子のコーディングバリエーションと非コーディングバリエーションが生じます。この遺伝子の疑似遺伝子は 4 番染色体上にあります。[RefSeq 提供、2014 年 9 月]、機能: 好中球に対して走化性活性を有します。炎症において役割を果たし、オートクリン様式で内皮細胞に影響を及ぼす可能性があります。試験管内において、処理された形態の GRO- α (4-73)、GRO- α (5-73)、および GRO- α (6-73)は、30 倍高い走化性活性を示す。、オンライン情報:CXCL1 エントリ,PTM:N 末端処理形態の GRO- α (4-73)、GRO- α (5-73)、および GRO- α (6-73)は、末梢血単球から分泌された後、タンパク質分解によって生成される。、類似性:インタークリン α (ケモカイン CxC)ファミリーに属する。、

研究分野

サイトカイン-サイトカイン受容体相互作用、ケモカイン、NOD 様受容体、ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達。

画像データ



パラフィン包埋ヒト脳組織における GRO α 抗体の免疫組織化学分析。